

(別記)

西尾地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

平坦地の水田については、ブロックローテーション方式による団地化推進を基本に、より生産効率を高め、水稻・麦・大豆・飼料作物・飼料用米の集団作付を展開している。なお、麦の連作障害防止のため、麦の作付は最長2年とし集団地を移動している。

しかし、麦・大豆については、土壌酸度の不適正等により単収の低下を招いており、その是正が必要となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底により、米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

ブロックローテーション内において、大豆の作付時に塩害等により単収が著しく低下している農地では各地区単位で作付けを行う。現行の面積を維持しつつ、適正な管理を行い、品質向上を図る。

イ 新市場開拓用米

主食用米の国内需要は減少傾向にある。このため、国内、国外の米の新市場の開拓を図る米穀の作付に取り組む。

ウ WCS用稲

WCS用稲についても主要な転作作物と位置づけ、耕畜連携による実需者の要望に沿ったWCS用稲の生産を行う。

エ 加工用米

当該地域の加工用米は、地元醸造会社への販売を中心に生産を行っており、近年、加工用米の需要が高まってきている。

複数年契約を推進しつつ、地元の実需者との結びつきを強化する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦・大豆については、土壌改良材の施用による品質向上の取組を推進する。飼料作物については、生産者の栽培に対する意識向上を促し高品質化を推進する。また、地域全体で2年3作のブロックローテーションを行うため二毛作を推進する。

(4) そば

そばについては、水田のみならず畑地においても産地化を図ってゆく。実需者の要望に沿った生産を行う。

(5) 高収益作物（野菜等）

水稲からの作付転換を促し、収益力・生産基盤の強化を図る。

(6) 畑地化の推進

水田から畑地へ大規模に転換した生産者の収益力・生産基盤の強化を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1,857.3	1850.0	1845.0
飼料用米	67.1	69.0	71.0
新市場開拓用米	—	5.0	6.0
WCS 用稲	4.5	4.7	5.0
加工用米	2.3	2.5	3.0
麦	1226.5	1230.0	1240.0
大豆	1143.6	1150.0	1160.0
飼料作物	22.8	23.0	24.0
そば	3.0	3.2	3.8
その他地域振興作物			
野菜	29.6	30.0	32.0
果樹	0.7	0.9	1.5
花き・花木	3.5	3.6	4.0

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	小麦	麦の品質向上への助成	単収	(29年度) 483kg/10a	(32年度) 540kg/10a
2	大豆	大豆の品質向上への助成	単収	(29年度) 159kg/10a	(32年度) 180kg/10a
3	飼料用米	飼料用米の生産性向上への助成	省力化技術 導入農家数	(29年度) 23人	(32年度) 29人

4	野菜、果樹、 花き・花木	高収益作物への助成	取組面積 (野菜) (果樹) (花き・花木)	(29年度) 29.6 ha 0.7 ha 3.5 ha	(32年度) 32.0 ha 1.5 ha 4.0 ha
5	麦、大豆、飼 料作物、WCS 用稲、加工 用米、飼料用 米、	二毛作への助成	取組面積 (麦) (大豆) (飼料作物) (WCS用稲) (加工用米) (飼料用米) (計)	(29年度) 66.0ha 1142.5ha 13.1ha 0.0ha 1.0ha 0.0ha 1,222.6ha	(32年度) 69.0ha 1155.0ha 15.0ha 0.1ha 1.5ha 0.5ha 1,241.1ha
6	WCS用稲	資源循環（耕畜連携）へ の助成	取組面積	(29年度) 4.5 ha	(32年度) 5.5 ha
7	飼料作物	飼料作物の高品質化への 助成	栽培管理記録の 実施農家数	(29年度) 0人	(32年度) 6人
8	そば	そばへの助成	取組面積	(29年度) 3.0ha	(32年度) 3.8ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり